

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	浅野 丈		
所属	電子情報システム EP	学年	3 年
派遣先大学	アンナ大学		
期間	9/24～10/1		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

インド滞在に関して、研修の面ではインド工業における実情の把握をすることができた。工場や研究施設の見学を通して日本との差異・共通点だけでなく、革新的なアイデアや先進的な実情を肌で感じることができた。語学面では、インド英語のアクセントについてある程度発音に慣れることができた。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

社会的な面では、日本とインドでは大きな差異があるため苦労する部分もあるが良い刺激になると感じた。特に手を使った食事、その他社会的なマナーなど。文化的な面でいえば遺跡や博物館の見学を通して感じたこととして、特に印象に残っているのは日本の文化との共通点・類似点である。言語や宗教的な行事、風俗等様々な点でその共通点を感じることもできたといえる。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドへの派遣は適応に非常に苦労する部分もあるが貴重な経験をたくさんすることができます。日本でのプログラムについても、外国の方からみた日本という視点についても考えることができ、普段の日常とは異なった価値観や視点を持つことができますと思います。総じて参加して得たものは非常に膨大かつ貴重であるので良い経験になったと思いました。

(現地の菓子製造会社への訪問時の写真)



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	S. H,		
所属	理工学府 数物・電子情報系理工学専攻 関口研究室	学年	修士 1 年
派遣先大学	アンナ大学		
期間	9/24~10/1		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

インドの学生は義務教育の時点で自分の居住地域の言語(タミル語、ヒンドゥー語等)と英語両方を学習すること、居住地域が異なる人々がコミュニケーションを図る際は英語を使用することを学びました。さらにタミル語の言語構造が SOV という日本語と同じものになっており(これは世界の言語の中でも珍しい、基本は英語同様の SVO)、日本語の起源である可能性があることを学びました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドの方々の私たちをもてなす心意気は素晴らしい物でした。教授の方から私たちに会いたい、話を聞かせて欲しいという要望を多く頂き、貴重なコミュニケーションの機会を多くいただきました。他にも、大学の敷地内を移動する際にほぼ毎回 EB(電動の車のような乗り物)で運んで頂いた他、講義の度に軽食が用意されている等ホスピタリティが豊富でした。

日本と異なると感じた点は物乞いの多さです。日本よりもずっと貧富の差が激しいためか、観光地付近に多くいました。貧困の差と言えば、都市部と郊外の発展度合いの差も日本よりもずっと激しかったです。

また、特にイベント等が無いにも関わらず、夜 21:00 程度まで大学に多くの学生が残って学業に打ち込んでいる点も衝撃でした。インドでは日本の大学生と異なりあまりアルバイトをする習慣がないようで、その分勉学に集中できるそうです。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

本プログラムへの参加の語学力基準として「Toeic600 点以上」という物があります。予想は出来ると思いますが、この基準ギリギリの語学力では現地でほとんど意思疎通が図れません。実際自分は 635 点という基準ギリギリの語学力で参加しましたが、他のメンバーに頼りきりでした。

理想を言えば 800 点程度、さらに普段あまり行わないスピーキングの練習を積んでから参加できるとより良いと思います。

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	S. S.		
所属	理工学部	学年	4
派遣先大学	アンナ大学		
期間	9/23 から 10/2 まで		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

- ・派遣先の大学では、海洋・機械・情報など、さまざまな分野の講義を受けたり、研究室を見学することができ、将来の自身の研究につながる見識を広げることができた。
- ・大学外の研究所・工場なども訪れたが、自分の想像していた以上に技術が進んでおり、衝撃を受けた。
- ・インドの人々は、聞き慣れたアメリカ英語に近い発音をする人もいれば、1度では聞き取れない独特の発音をする人もいて、はじめは混乱した。そういった中でコミュニケーションを取らなければならないので、リスニング力は強化されたと思う。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

一番日本との差を感じた部分は、宗教観の違いだった。どの飲食店でも、ヒンドゥー教徒を前提とした食事が標準であること、どのインド人も、自身の信仰している宗教の歴史や戒律をよく理解していることが印象的で、インド人の生活に宗教が深く根付いていることが実感できた。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドの人々、生活、環境は日本と全く異なります。だからこそ、この派遣プログラムは自身の視野を広げる良い機会になりました。

また、現地の大学生との交流を通じて、ただ旅行で訪れるだけでは得られない貴重な体験ができる点も、このプログラムの大きな特徴です。

少しでもインドに興味があるならば、参加することをお勧めします。

